



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.8 2006.5



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

## 目次

	ページ
● トピック	
中原評価委員長 PICMET 賞受賞	1
マドリッド自治大学との連携	2
大学の国際化 - 高雄大学学長会談	2
● イベント報告	
初等中等科学技術教育の国際的動向とイノベーション	2
● コラム	
大正時代と理研の分析	3
● 学生の目	
SIMOT: その学術分野と展望	3
● 最近の動き	4
● イベント予定	4
● 連絡先	4

## トピック

### 中原評価委員長 PICMET 賞受賞 *PICMET 06 Leadership on Technology Management Award*

SIMOT 研究センター評価委員長 中原恒雄氏 (中原総合研究所 代表取締役、元 住友電工 副会長) が、PICMET (技術経営国際会議: Portland International Conference on Management of Engineering and Technology) にて、PICMET 06 Leadership on Technology Management Award (LTM) の受賞者のひとりに選ばれました。

LTM は、技術経営分野の実践的戦略の確立にリーダーシップを発揮した個人を対象とするもので、1991年の創設以来、ジャック・ウェルチ GE (ゼネラル・エレクトリック) 会長をはじめ世界トップリーダーが受賞しております。

今次の中原委員長の受賞は、光ファイバーケーブルの開発において先導的役割を担うなど、最先端の技術分野における優れた経営により、同氏が日本の電子技術の振興に大きく貢献したことが評価されたものです。授与式は、7月にイスタンブール (トルコ) にて行われます。

## マドリッド自治大学との連携 学術交流協定の締結

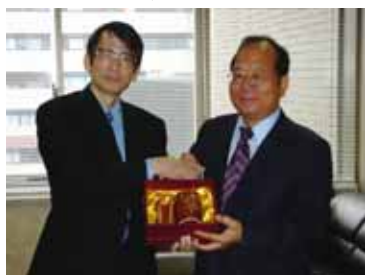
マドリッド自治大学（スペイン）と SIMOT 研究センターとの間で、(1)研究者の招聘、(2)共同研究の遂行、(3)若手研究者のトレーニング、を主要な狙いとする学術交流協定が結ばれました。マドリッド自治大学は、首都マドリッド中心部から 15km ほどの郊外に位置し、約 3 万 6000 人の学生を擁する名門大学です。マドリッド自治大学の IADE (Instituto Universitario de Investigación en Administración del Conocimiento e Innovación de Empresas) は、企業経営研究に関する学内研究所です。このたび、SIMOT の理念と活動に大いに共鳴された IADE 所長のエドワルド・ブエノ・カンボス教授の提案によって協定が締結されました。ここでは、「イノベーション・知識」を切り口としたさまざまな研究が進められており、スペイン国内のサイエンスパーク政策にも深く関与しています。日本型技術経営のキーワードでもある「暗黙知」や「場」といったコンセプトを駆使した分析と議論が盛んであり、交流による今後の国際的な成果が期待されます。



IADE 所長の  
エドワルド・ブエノ・カンボス教授

## 大学の国際化 高雄大学 黄英忠学長 SIMOT 研究センター長訪問 (2006 年 4 月 20 日(木) 東工大)

高雄大学（台湾）の黄英忠学長が大学の国際化の推進のために 4 月 18 日に訪日。中でも SIMOT の国際交流や若手支援の実績に大いに感銘を受け、SIMOT 研究センター長の渡辺千仞教授との意見交換を行うべく、4 月 20 日に経営工学専攻を訪問されました。



握手を交わす黄英忠高雄大学学長（右）と渡辺千仞 SIMOT 拠点リーダー

大学の現状や将来のあるべき姿、国際化に関する取り組みについて議論を交わされ、技術社会の発展の根底は人的資源に依存するとの見解で合意し、各国の研究者及び学生の交流が教育に果たす役割の重要性を強調されました。また、折しも高雄大学ではアジアパシフィック地域技術経営研究センターを設立したこともあり、今後 SIMOT との共同研究や国際シンポジウムへの積極的参加のご意思を表されました。

最後に、会談の成功と今後の SIMOT と高雄大学との有機的な連携の展望に謝意を表され、高雄で有名な陶芸作品を贈呈していただきました。

## ■ イベント報告 ■

### 初等中等科学技術教育の国際的動向とイノベーション (2006 年 4 月 20 日(木) 東工大 百年記念館)



4 月例会では、国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官の小倉康氏に、「初等中等科学技術教育の国際的動向とイノベーション」とのテーマで講演していただきました。小倉氏は初等中等教育、特に理科教育の国際動向についての調査・研究を専門とされ、今講演では、IEA（国際教育到達度評価学会）が進めている理系科目の到達度に関する国際的な調査（TIMSS: Trends in

International Mathematics and Science Study）、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA: Program for International Student Assessment）などの調査結果を基に、日本と世界の理科教育の現状について比較検証をされました。国際的に見て日本学生の理科系科目への学習意欲が減少しており、理系科目への学習動機を高めることで少子化・理系離れといった近年の課題克服が可能であることを示唆するとともに、インスティテューションの異なる世界各国の学習制度・環境との比較を通じて、日本学生の学習意欲向上のための施策に言及されました。



## コラム

### 「大正時代と理研の分析」

SIMOT 研究センター センター員/ 運営委員  
東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授 木本 忠昭



日本の技術展開からみて興味ある時代の一つは、大正時代があげられよう。この時代は、富国強兵の道を突き進んだ時代が一段落し、他方では第一次大戦が強く影響した時代である。第一次大戦時には、欧米資本が撤退後し、「ヴェンチャー」企業が簇生、新技術も次々と導入された。しかし、戦後は不況に加えて、欧米資本の日本市場への再進出により、それらの新興企業の多くは倒産の憂き目にあつた。他方では、大企業は、「日本当事者は（カルテルを組織し）・・・国内で窒素工業が起ころぬように努力する」（1920「藤原・ポッシュ協定」）と外国資本に約束する

など、いったいどの国の企業かと、耳を疑うような政策を展開しようとする大企業もあつた。こうした中で、多くの研究所も設置された。その中で、この時代の特質の一つである大正デモクラシーを背景にした理化学研究所の展開は、きわめて興味ある事例である。長岡半太郎、鈴木梅太郎、池田菊苗、仁科芳雄、朝永振一郎、本多光太郎、大河内正敏などなどの人材があつた。制度的には、研究費・人事の自由裁量などをはじめとする自由な研究室制度など、帝国大学とは異質の研究室制度が採用された。女性研究員も採用され、工作室関係技術者にも留学の機会が与えられた。理研は、大河内正敏所長時代には、ついに「理研コンツェルン」に成長した。そのやり方は、ドイツの醸造産業に範をとった「芋づる式経営」といいながら、他方では「科学主義工業」を唱えた。同じ新興財閥の日産、日室コンツェルンとは異なる企業特質を持ちながら、旧財閥とは異なる技術政策では共通するものがあつた。

理研や新興財閥と旧財閥の拮抗のなす大正～昭和初期の展開、そして大戦後の理研コンツェルン解体後の「科学研究所」の転変問題を分析することは、「日本型」技術政策や institutional なものを考える上で新たな視点を与えるものと考えている。

## 学生の日

### SIMOT: その学術分野と展望

東京工業大学大学院社会理工学研究科  
経営工学専攻博士課程 3年 Kwok L. Shum

革新的学術分野「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」は、技術経営 (MOT) に関する非常に革新的な研究・教育プログラムです。

MOT は現在、日本で非常にポピュラーですが、多くは商品開発と業務管理のみに焦点をあて、イノベーションに対する展望を欠いています。その点 SIMOT は、より包括的に、イノベーションの発生から利用に至るまでの全体のサイクルを研究対象としています。

現在のイノベーションは、多数のイノベーションパートナーを巻き込みながら広まるため、イノベーションの包括的な展望を得るには、SIMOT のフレームワークである「インスティテューション」の概念が自ずと必要となります。また、科学は潜在的に技術のカウンターパートと考えられ、互いに不離一体である両者の最適な関係を探ることは重要です。そのため、この分野の研究には、技術のみではなく「科学原理」についての研究もまた必要であると考えます。さらに、産業の生のイノベーションを扱うことも SIMOT の観点からして不可欠です。

したがって、SIMOT の中核授業「インスティテューショナル技術経営」における、社会科学系研究者及びビジネス実務経験者で構成される特任教授のラインアップは、SIMOT の研究・教育課題に最適であると考えます。

SIMOT は、イノベーションマネジメントに対する新しいアプローチとして、MOT 教育を進展させる基盤になり、SIMOT の可能性を最大限に発揮させるためにも、本拠点において、私も勉学・研究に励まなければ、との思いを新たにしています。





## SIMOT とは・・・

SIMOT とは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復し、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。“サイモット”と呼称しています。

## ■ 最近の動き ■

### 海外出張

- 矢島 4月8日～13日 シンガポール (国際会議 PAKDD 2006)  
5月9日～14日 米国 アトランタ (機械学習法に関する国際会議 IEEE-GrC2006 にて発表)
- 圓川 4月23日～25日 中国 上海 (研修)
- 渡辺 4月28日～5月6日 オーストリア ウィーン (国際応用システム分析研究所)  
5月21日～27日 中国 北京 (IAMOT)
- 飯島 6月24日～26日 中国 香港 (The Institute for Operations Research and the Management Sciences  
INFORMS にて発表)

## ■ イベント予定 ■

### 研究・技術計画学会 国際問題分科会 6月例会

- 日時 6月22日(木) 18:00～20:00
- 場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室
- テーマ 日本企業の組織・制度・文化とハイテク・イノベーション  
- 「インスティテューショナル技術経営学」への示唆
- 講師 菅野 寛氏 (ボストン コンサルティング グループ ヴァイス・プレジデント&ディレクター)

### 第4回 東工大 Inter-COE21 シンポジウム

- 日時 8月11日(金)
- 場所 東京工業大学
- 内容 高校生、大学生、一般を対象とした、東工大 COE 各拠点の紹介

### ● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム  
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51  
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
西9号館 208B 号室  
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250  
Email: [nakane@me.titech.ac.jp](mailto:nakane@me.titech.ac.jp)  
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>  
編集者: 菊池 隆